



第62号

みせん

瀬戸内海国立公園
宮島地区パーク
ボランティアの会

発行日
平成27年12月1日

◇ 目 次 ◇

- | | |
|---------------------------------------|---------------------------------|
| P 2 入浜池補足調査③ | 入浜池補足調査④ |
| P 3 公募観察会：干潟観察 | P 8 会員交流会「周防大島の自然体験」 |
| P 4 公募観察会：干潟観察アンケート結果 | P 9 同上続き |
| P 5 投稿：富士山とビジターセンター
ミヤジマトンボ生息地整備作業 | P 10 紅葉谷公園補修・清掃活動
極楽寺山「自然探勝」 |
| P 6 入浜池定点観察③及び維持管理作業 | P 11 樹木名板維持管理作業 |
| P 7 自主観察会：「ハチクマ渡り観察」 | 編集後記 |

谷を上るロープウェイ



弥山（標高 535m）が、観光客に人気らしい！

連絡船を降りて見上げると、弥山に続くロープウェイの車体が並んでいる。

獅子岩駅までロープウェイを利用し、更に徒歩で頂上を目指す。

登山を味わって山頂に立ち、360 度の眺望！

多島美を眺めれば満足感に浸ること間違いない。

（文・写真 大西 順子）

入浜池補足調査③

日 時：8月 22日(土) 9:00～13:30

天 候：晴れ

参加者：大西 小川 小林ペア 穂谷 松田
横路 六重部 前田 以上 9名

【植物】六重部 篤志

さすが立秋も過ぎたので花は殆どありません。花と言えばコケオトギリ(小さな花)キヨウチクトウ、ハマゴウの花は例年に比べると遅いような気がする。早く咲いたものは実になっている。花と言えばこのぐらいです。あとはそれぞれ実になっています。来月になるともっと淋しいでしょう。

【水質】小川 加代

今日の特徴は全体的に COD が余り良くなかった。B 地点で 12、山水が出ている C 地点で 5、池の出口 F 地点 10、塩分濃度は B 地点で 0.27%、山水の影響がない中央で 0.14%、F 地点で 0.44%。全体的に水温が高く、B 地点で 33.5℃。不思議に思って調べたら、水温センサーを水底に置くと高く、水面に近いほど低いことが判明した。

【昆虫】松田 賢

トンボは、数は多かったが種類は少なかった。オニヤンマ、ギンヤンマ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ウスバキトンボ、イトトンボの仲間はアオモントントンボ 1 種類だけだった。この時期としては少な目だ。但し、数は非常に多かった。60 匹ぐらい、前回は 20 匹ぐらいだった。夏場と言うこともあるので量としては増えているのではないだろうか。又、交尾したり、産卵したり、追っかけたりと動きも活発だった。前回はたまたまだったのかも知れませんが、アカトンボの仲間のリスアカネが見られたので 8 月になつたらそろそろ降りて来るのかと思っていたが、未だ気温が高いのでアカトンボの仲間を見ることは出来なかった。トンボ以外では池の中にはハイイロゲンゴロウがたくさんいた。バッタの仲間のイナコ、ササキリなど成虫した生き物がたくさん見られた。砂浜ではヤマトマダラバッタ(広島県 REB 準絶滅危惧種)、クルマバッタモドキ、ショウワリョウバッタ



など、又、ハマゴウの花粉を集めるキヌグハカリバチ(広島県 REB 準絶滅危惧種)などが確認された。魚では河川の下流にいるハゼの仲間のシマヨシノボリなどが見られた。

【野鳥】大西 順子

今日はメジロティーでした。すごく沢山のメジロに遭遇しました(30 羽位)。コチドリの幼鳥もいました(ここで子育てしているようです)。ヒヨドリが昆虫を咥えて飛んでいた。スズメの砂浴びを見ていたらその中にカワラヒワの未だ産毛が見える幼鳥が 2 羽混じっていた。ヤマガラ、キビタキの幼鳥、ホオジロの幼鳥、セグロセキレイ、イカルの声、夏鳥としてはコチドリとキビタキです。そして大きなサルを目撃しました。

(まとめ 小林 翁)

◇干潟公募観察会(8/29)下見

日 時：8月 17日(月) 14:30～16:55

天 候：曇り

場 所：大元公園下 無料休憩所

休憩所前砂浜～大鳥居近くまでの干潟

参加者： 小林(み) 佐藤(庸) 中道 平田(広)

檜和田 村上 呼坂 前田 森 以上 9名

◇極楽寺山

「自然探勝(10/31)」下見

日 時：10月 25日(日) 9:00～13:35

天 候：晴れ

場所：観音台コース～極楽寺～屋代コース

参加者： 大西 小方 川崎 小林(翁) 坂本

村上 増田 以上 7名

公募 干潟のいきもの観察会

日 時：8月29日(土) 11:00～15:10

天 候：曇り、時々小雨

場 所：大元公園無料休憩所～休憩所前干潟～御手洗川河口～大鳥居周辺干潟

参加者：岩崎 大西 奥田 金山 川崎 北野
小林ペア 佐渡 佐藤(佐) 佐藤(庸) 島
末原 中道 平田(攻) 檜和田 弁田 村上
呼坂 六重部 前田 森 以上 22名

環境省：武石自然保護官 大高下 AR

公募参加者：19名(7家族、3個人)

午前中は無料休憩所にて呼坂講師を中心とした5名の講師陣が、干潟で生きる生物の説明を行った。樹脂で作られた巣穴の実物大模型を見ながら、カニの種類、その他、アナジャコ、テッポーエビ等々の説明を子供達は興味深く聞いていた。続いて中道講師より宮島の歴史、特に大鳥居について説明を受けた。昼食をとり、午後2班に分かれて海へ下りた。

子供たちは海辺に下りると、早速、動く“力二”を捕まえて、「この力二何？」と聞いていた。“アラムシロ”的生態を調べる為イワシの死骸を一匹流れのある水たまりに置いてみる。早速集団の貝が匂いを嗅ぎつけ動きはじめる。観察会の最後にどの様に変化するか確認することになる。砂泥地に移動、チゴガニ、イソガニ、ヒライソガニ、マメコブシガニ、他観察。特に巣穴をスコップで掘り返してみる(後元へ戻す)。

人気の高いハクセンシオマネキを遠くより観察したが、周囲が少し騒々しく穴より上に多くは出てこなかつた。根気良く大きなものを見つけ喜ぶ子もいた。

観光客で賑わう大鳥居に近づくと、中道講師が主柱の周りに集まるよう促し、資料を基に大鳥居の各部名称、材料、改修の歴史等を説明する。皆熱心に聞き入っていた。

浜で一番喜ばれたのは「マテガイ捕り」であった。砂地に開いた小さな穴に塩を入れ数秒～数十秒すると貝が頭を出してくる。それを捕まえるコツを教わり、「マテガイ捕り」を行つた。これが参加者に大変喜ばれ

た。私も初めての体験だったが子供心になって一緒に楽しんだ。

最後に「アラムシロ」の確認を行つた。イワシに多くのアラムシロが取り付き、骨のみとなっていたが、もう一方はアラムシロが2～3匹たかっていたが、まだ食べ尽くしていなかつた。でもアラムシロはやはり「海の掃除屋」さんだ！

今度の干潟観察会は子供達に色々な体験をして貰うことが出来て、大変貴重な観察会だったと思います。



ハクセンシオマネキのオス



そろそろマテガイ捕獲作戦が始まる



「マテガイ捕り」に熱中

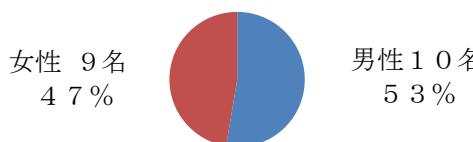
(文 檜和田 正嗣)

(写真 呼坂 川崎 小林(庸))

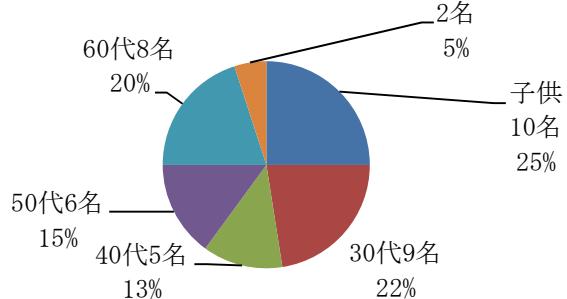
公募観察会アンケート結果

参加者：大人 10 名、子供 9 名、回答：9 名

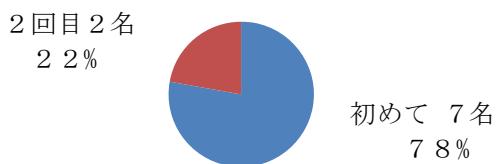
【参加者の性別】



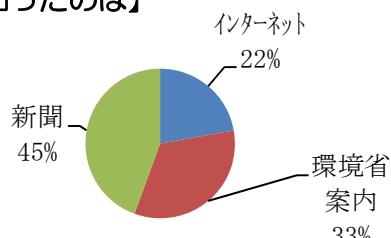
【参加者の年代】(子供5~11歳)



【観察会への参加回数】



【行事を知ったのは】



【行事の感想】



●参加したきっかけは

10代】・宮島の近くに住んでいるから。

30代】・自然に興味があるから

- ・子供に、生き物とふれあい干潟の生き物に

40代】・自然に興味があるから。

- ・子供達が動物や虫等に興味があるので
- ・干潟に興味があったため

60代】・干潟の生き物の観察を子供に経験させたかった。

70代】・干潟の生き物については全く知らない。機会がなかったから。しかし、大いに興味があった。子供の頃、イソギンチャクとか亀の手(通称)、つぶ貝を探った覚えはある。

●観察会内容

30代】・マテガイの塩を使った捕獲作戦はとても面白く楽しかったです。

- ・新しいことの発見の連続で、子供とともに大変喜んでおります

40代】・天候が不安定でしたので、タイムスケジュール通りでなくとも良かったです。

- ・大変盛り沢山の内容で、興味深くお話を伺うことができましたが、多過ぎて少ししか覚えられなかつたのが残念でした。
- ・1時間があつという間に過ぎました。

60代】・今までただ通り過ぎていた浅瀬が楽しく過せそうです。

- ・「ワンダフル」の一言に尽きます。

70代】・観察生物の種類が少ないのが残念だった。

●講師・テキスト

30代】・テキストはカラーの方がいいです。

40代】・テキストがあったので、事前に少し理解でき、現地でなるほど！という点があり良かったです。

- ・写真つきで分かり易く良かったです。

60代】・良かったです。

70代】・よく似て違うもの(例えばウミニナガイとホソウミニナガイ等)は大きく図に書いたもので違いを教えて欲しかった。

●その他

40代】・受付場所が分からず、担当の方に電話したが繋がらなかった。緊急時用のTEL番があった方が安心だと思いました。

- ・干満の差が大きいことによる生物多様性を学びました。

60代】・「生き物」を観察する機会がない中で素晴らしい体験(観察)ができました。

●ご意見、ご要望があれば記入ください

30代】・また機会があれば参加したいです。

40代】・現地でお汁などいただけるとなお嬉しいと思います。子供の感想ですが干潟の生物の種類の多さが嬉しかったです。力二が20個とれたのが嬉しかったです。

- ・今後は磯の生物の観察会を開いてください。
- ・山のイベントもあれば参加してみたいです。

(まとめ 弁田 祐子)

投稿：富士山保全協力 とビジターセンター

この夏 8 月 19 日、10 年ぶりに還暦記念として富士登山をした。この間世界遺産に登録され、登山者は増加、保全協力金の制度ができている。

須走五合目朝 9 時、道の両側に静岡県の協会ボランティアが待ちかねている。「私も宮島でパークボランティアを…」と話すと「お仲間ですね」と協力金千円と引換えに北斎画のバッジを付けてくれる。『あなたの気持ちを富士山へ!』と要請しているものの、入山料ではなくあくまで協力金。この時は五人に一人程度が立ち止まり、外国人はほとんど通過の状況。下山時 吉田口で聞いたところ、登山者の 4 割程度の協力があるという。この日は意外なことに登山者の雑踏が無い、14 時剣ヶ峰山頂では私その他 2 名のみ、お鉢回りでは霧と強風の中の一人歩き、山の怖さを感じた。又外国人の多いこと、約半数を占める、しかもほとんどが軽装であることに驚く。

無事 19 時まだ陽のある内、吉田口五合目に到着、翌朝旧登山道(江戸時代の参詣道)を北口本宮浅間神社まで下る。誰も歩いていない、二合目の神社跡は朽ち、途中の茶屋は廃墟になっている。人が歩かなければ道は廃れる。整備をしなければ環境も安全も保つことはできない。それを支える協力金は登山者が負担する責務と考えます。

【写真①】富士山保全協力バッジ



【写真②】登山口の富士山保全協力ボランティアの方々



下の写真は河口湖 IC 近くにある富士山ビジターセンター(山梨県立)。ここは素晴らしい展示施設の他にボランティアの活動拠点にもなっている。これだけでも立派な施設なのに来年オープンを目指して隣に世界遺産センターを建設している。ビジターセンターの無い宮島にとっては羨ましい限りだ。

【写真③】富士山ビジターセンター



(写真・文 岩崎 義一)

ミヤジマトンボ生息地 の整備作業に参加

日 時：9月7日(月) 8:30～12:40

場 所：宮島南西部

主 催：ミヤジマトンボ保護管理連絡協議会

参加者：小川 五石 佐藤(佐) 佐藤(庸) 末原
中道 檜和田 松田 柳瀬 大林
前田 森 以上 12 名

環境省：武石自然保護官 関自然保護官

(6) みせん

ミヤジマトンボ生息地の水路が海砂で埋まり、生息地内の環境悪化が懸念されているため、ミヤジマトンボ保護管理連絡協議会他総勢 32 名が参加し、海水が定期的に入るように水路の海砂除去と土のう積みを行いました。作業終了後、坂本会長より会員にミヤジマトンボの生態について説明をしていただきました。



坂本会長から説明を受ける PV の会会員

(写真・文 末原 義秋)

入浜池定点観測③及び 入浜池維持管理作業

日 時：9月 26日(土) 9:00～13:30

天 候：晴れ

参加者：大西 小林(観) 佐藤(佐) 佐藤(庸)
末原 中道 檜和田 松田 柳瀬
山崎 横路 吉崎 麻生 増田 森
以上 15 名

【野鳥】大西 順子

まず、ヒトモトススキの中にアオサギの姿を確認しました。モズが高鳴きをし、コゲラが盛んに木をつついで採餌し、ヤマガラは木の実を運んでいた（貯食をしていると思われる）。セグロセキレイはこの時期なのに何故か綺麗な声で囀っていました。珍しくハヤブサを確認した後、ヒヨドリの小群が移動する姿も見られ、鳥の季節も秋らしくなっています。

その他、ミサゴ、トビ、アオゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラメジロ、イソヒヨドリ、コサメビタキ、スズメ、ホオジロ、ムシクイ類、計 19 種



赤い羽根は雄の印

コゲラの雄

(写真 大西 順子)

【環境整備】末原 義秋

あまりイノシシが出ていないようなので、水路は土のう袋を整理するぐらいと水を流れ易くするため石を整頓した。海岸のゴミ拾いで約 10 袋拾いました。

【植物】山崎 美和

一ヶ月も経つと随分様子が変ってきてています。色んな実が色づいて、赤く色づいているのはハスノハカズラです。ヤタイヤシの実がたわわに実って小鳥たちが啄んでいました。ヌルデの木にムシコブがついています。葉に虫が入って膨らんできたのをムシコブと言います（ヌルデミミフシともいいます）。昔から人々が利用してきたものです。江戸時代は結婚した女性は「おはぐろ」といってこのムシコブの中の成分を歯に塗っていたそうです。11 月の公募観察会で楽しみなのはシロダモです。黄色い花と赤い実で花と実が同時に見られます。

【水質】横路 昇

水位は前月より増えているようです。塩分濃度は A 地点で 0.04%、山側が 0.00%、これは伏留水が流れ出ていると言うことです。水温は B 地点で 22.5°C でした。COD は A 地点、山側が 8～9 で前回は 11～20 でしたので全体的に見れば水質は綺麗になっているようです。

【昆虫】松田 賢

トンボは思ったよりも種類は伸びていません。種類を挙げると、リスアカネ、タイリクアカネと池の周りにはギンヤンマ、オニヤンマそしてアオモンイトトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ウスバキも見られる。レモンエゴマの花が沢山咲

…みせん（7）…
いていた。その中に何種類かのハチがいた。
今、話題のスズメバチではオオスズメバチ、
ヒメスズメバチ、クマバチ、ドロバチなど。
砂浜では広島県準絶滅危惧種のヤマトマダ
ラバッタが見られた。

（まとめ 小林（覗））

ハチクマの 渡り観察会

日 時：9月 28日(月) 9:00~12:00

場 所：佐伯運動公園

参加者：岩崎 大西 小方ペア 黒木
小林(覗) 佐藤(庸) 中道 村上
吉崎 大林 前田 以上 12名

ハチクマの渡りは例年より早くピーカーを過ぎたようだったが、時期の少し遅いノスリ、サシバ、ハイタカ、ツミなどの渡りが観察出来たのはラッキーだった。



ハチクマ

特に、大きなハチクマの幼鳥に小さなツミが向かって行き 2羽のバトルの様子には皆で注目した。ツミの気性（？）の表れだとこのことを、当地でタカの渡りを調査されている研究会の方から解説を聞くことができた。また、ハチクマの1年目の若鳥は、繁殖地に戻らず、2年目から渡りをするそうだ。タカの生態についても知識を得ることが出来て、とても興味深かった。

観察できた鳥 計 19種

「タカ 6種」ハチクマ 27羽、ノスリ 7羽、サシバ 2羽、ツミ 5羽、オオタカ 1羽、トビ「その他の鳥」カワラヒワ、キジバト、

入浜池補足観察④

日 時：10月 10日(土) 9:00~14:00

天 候：曇り

参加者：大西 小川 小林ペア 中道 松田
横路 前田 増田 以上 9名

【植物】小林 みどり

シロダモなど森を彩る実が段々赤くなりつつあります。ダンドロボロギクの白い綿毛よく目立ちました。ヒトモトスキの根元から引き千切られたものが 2,3 株ありました。多分、イノシシか鹿のせいでしょう。セイタカアワダチソウがフェンスの中で咲いていました。海岸の木々の海向きの葉が茶色になっているのは先日の大潮の時、塩を含んだ風が当たったのではないかと考えられ、塩害だと思います。

【水質】横路 昇

全体的に油のようなものが浮いています。A 点は特にひどいです。水の量は前回とほぼ同じ、海水の出口ですがこれは完全に埋まって満潮時でも海水が中に入る状態ではありません。最近は海水が中に入った様子はなさそうです。そういう状態での塩分濃度を測定すると山側 CC' は 0 %, A 点 0.13 % B 点 0.49 %、中央 0.28 %。池全体で見ればばらつきがあります。COD は全体的に低目です。BC' 点 5 以下 A 点中央 9~11。全体的には、5 以下です。PH は AB 点で 6.7~6.8 山側 6.2~6.4。水温は全体的には 18°C、B 点は 26.6°C でした。山の水量は前回より若干増えている。

【昆虫】松田 賢

今日のトンボは、日射しも弱く気温も高くなく活動はあまりなかった。アカトンボの仲間のタイリクアカネは繩張りを張ったり産卵したりとか活動らしき動きは見られなかった。イトトンボの仲間のアオモンイトトンボ、ギンヤンマが池の周りをパトロ

(.8) みせん
ールしていた。林の中を飛翔するヤンマの仲間のヤブヤンマ、それと同定出来なかつた種類を合わせて 5 種類でした。

【野鳥】大西 順子

種類を挙げるとキジバト、カワウ、アオサギ、ウミネコ、トビ、コゲラ、アオゲラ、ハシボソガラス、ヤマガラ、シジュウガラ、エナガ、ジョウビタキノ雄・雌も確認出来た。キセキレイ、セグロセキレイ、メジロ、ミサゴ以上でした。渡りの途中の鳥としてオオルリ（雌）1羽、キビタキ（雌）1羽、コサメビタキ3羽、メボソムシクイ1羽、ヒヨドリ約500羽の群れとハヤブサ1羽これらはこの季節ならではの観察だったと思ひます。（写真 大西 順子）



メボソムシクイ

ツマアカスズメバチ情報

松田会員より最近、新聞やテレビで話題になっている外来のスズメバチのツマアカスズメバチのお話がありました。平成24年に長崎県対馬市で初めて発見され九州や本州に侵入する可能性があるそうです。

※懸念される影響

●生態系への影響

在来のスズメバチの減少や捕食される昆虫の減少による生態系のかく乱

●農林業（養蜂）への影響

飼育ミツバチ攻撃、養蜂や受粉への被害

●人への影響

在来のスズメバチと同様、人への刺傷被害

●主に昆虫類（含むミツバチ）を捕食します。など、色々と問題がありそうです。

（まとめ 小林 翼）

周防大島の自然体験 PV 会員交流研修会

日 時：10月17日（土） 7:30～18:00

天 候：晴れ

参加者：足立 岩崎 大西 小川 奥田 川崎
黒木 五石 小林ペア 佐渡 佐藤（佐）
佐藤（庸）末原 穂谷 中道 野呂田
平田（広）舛田 村上 山本（昌）横路
呼坂 前田 森 以上 25名

7時30分、参加者25名、宮島口でマイクロバスに乗り込み、補助席を数台開いてほぼ満席状態で周防大島へと向かいました。

主な訪問地、お目当ては、①嵩山（自然全般）、②フジバカマ園（アサギマダラ）、③農村交流伝承館「服部屋敷」（見学・昼食）、④「なぎさ水族館」（ニホンアワサンゴ）でした。

バスが順調に走ったので、特産品で賑わう大島大橋直前の道の駅でしばらく過ごしました。土曜日とあって鮮魚は早朝からもう品不足でしたが、小粒で甘酸っぱさが最高の極早生ミカンは人気が有りました。

橋を渡って15分位走り、大島を案内してくださる山本弘三さんとの待合せ場所、土居地区のコスモス満開の駐車場に到着しました。定刻に来られた山本さんと村上会長が挨拶を交わされた後、案内予定を説明していただきました。山本さんはミカン農家ですが趣味が広く周防大島の陸・海・空など幅広く保護活動をされています。バス車内では周防大島の自然環境、保護活動について案内をいただきました。大島で4番目に高い嵩山（だけさん）619mの山頂近くで下車し、植物や島の特徴を紹介していただきながら山頂に向かいました。山頂からは周囲160Kmと瀬戸内海では淡路島・小豆島に次ぎ3番目に大きいこの島の景色を存分に楽しみました。また下山途中あちらこちらから見下ろす多島美は絶景でした。

その後はバスで移動し、山本さんが携わっているフジバカマ園に到着。この時期は旅する蝶のアサギマダラが南下移動中に立

寄る休息場です。餌となる蜜のフジバカマが植栽されていました。フジバカマの周りに行くと数十頭以上のアサギマダラが蜜を吸っていたり飛び交ったりしていました。撮影に一生懸命になる会員、また蝶の羽にマーキング(サインペンで羽根に現地名・日付・記名者の頭文字を書く)の指導を受け、自らマーキングした蝶が次は何処で見つかるかなと深い関心を持って話合う会員、と皆が夢中になっていたのが印象的でした。

アサギマダラは秋になると北や東日本から南の暖かい地方を目指して旅をし、九州や沖縄の島々まで飛んで行くそうです。

昼食は東和町道の駅隣りの農村交流伝承館「服部屋敷」。案内板の説明によると、東和町は神社仏閣を造ることで名高い長州大工の拠点で、この屋敷は長州大工の伝統的工法を伝える代表作とのことです。休館日にもかかわらず特別に利用させて頂きました。広い座敷のテーブル、家屋の隅や日当たりのいい縁側など、思い思いの場所で、この町の店から届いた吸い物付きのボリュームある美味しい弁当を頂きました。屋敷の中央部には大黒柱が有って広い畳部屋、土間には釜戸、納屋には蓮づくりの器具など、私たちの年代には懐かしいものばかりでした。

最後の見学は「なぎさ水族館」(運営はNPO)、日本一小さい水族館? 担当の方からニホンアワサンゴの実物を見せてもらいながら、生態や保護活動の説明を興味を持って聞き、卵から育て立派に成長させるには長い時間が掛かるということを理解しました。その後、各自は地元の生物に目を見張っていました。私はこの水族館は日本一頼もしい施設と思っています。

帰路に向かい車内でお酒が飲めなくて残念でしたが、楽しく充実した交流研修会でした。山本弘三さんには、ミカン収穫の多忙な時期に長時間貴重なご案内いただき、また美味しい自家製ミカンを頂戴し合わせて感謝いたします。

今回大島行の交流研修会が充実した内容になったのは舛田さんのお陰です。行き届いた配慮に感謝いたします。



山本さん(中央)と村上会長(右)、舛田さん



美しいアサギマダラとフジバカマ



服部屋敷

ニホンアワサンゴ

(文 写真 呼坂 達夫)

【続報】

翌日別の場所で再び山本弘三さんによって捕獲されたマーキング蝶です。今はどこを飛んでいるのでしょうか。どこかで誰かが見つけてくれると嬉しいです。

(文 舛田 祐子)



大西会員のチョウ

舛田会員のチョウ

(写真 山本 弘三さん)

紅葉谷公園 補修・清掃活動

日 時：10月24日(土) 9:00～12:00

天 候：晴れ

場 所：紅葉谷公園

参加者：PV会員：岩崎 小方 釜谷 川崎
黒木 小林ペア 佐藤(庸) 渋谷 末原
兎谷 錦織 平野 三次 柳瀬 横路
吉崎 前田 増田 森 以上 20名

環境省：関自然保護官

もみじは少し色づき始めていましたが、日中は暑いと感じるなかで、本年も「宮島さくら・もみじの会」と共同で紅葉谷周辺の清掃作業を行いました。これまでと同じく、側溝浚いと園路の補修・清掃などを当会が分担しました。

側溝には土などが大量に溜まり、馬力のいる作業となりました。昨年は、研修会員の初作業として、この清掃活動に参加し、ハードだなと感じましたが、今年も昨年同様にしんどいものでした。

ただ、通り過ぎる人の中には、「ご苦労さま」と声をかけてくださる人もいて、清々しい気持ちになりました。



活動終了前、長年「宮島さくら・もみじの会」で桜の守り方を指導しておられる樹木医の正本さんから、桜の更生の説明を受け、山村茶屋前の老木で実作業を見学させていただきました。大変参考になりました。



合同写真 「お疲れ様でした」

(文 森 弘 写真 前田 平野)

今号の俳句は大林實会員の初投稿です

投句 大林 實

七浦のどこ曲がりても牡蠣筏
麓まで弥山の落葉掃きにけり

砲台は明治の構へ早井戸

宮島の靈峰かすめ鷹渡る
汽水池や宮島とんぼ育めり

観音山(極楽寺山) 秋の植物を楽しむ トレッキング

日 時：10月31日(土) 9:00～15:30

天 候：晴れ

場 所：観音山(極楽寺山)

参加者： 岩崎 大西 小方(嗣) 川崎 北野
小林(庸) 坂本 兎谷 平田(攻) 村上
前田 森 山本(章) 以上 13名
観音台公民館 1名
公募参加者 18名

秋晴れの少し肌寒さを感じる中、高台にある観音寺に集合し、ストレッチ体操「熟年体操」の後、村上会長を先頭に3班に分かれて極楽寺を目指して出発しました。山道に入ると静かさに包みこまれました。

途中、それぞれの班長さんから、目にする植物に関する丁寧な説明があり、質問も幾つか出て、ゆっくりとしたペースで歩みを進めました。また、岩崎会員から「町石」の説明とそこに刻まれている梵字の説明があり、皆さん興味深く聞いていました。

約2時間半かけて極楽寺に着き、展望台で昼食を取りました。この日は、遠くまで比較的くっきりと見え、瀬戸内海の島々と海が良いコントラストを見せていました。

昼食後、3テーマのミニ講座があり、皆さん珍しい話に聴き入っておられました。北野会員の柿渋の話では、水に溶けるシブオールがアセトアルデヒドという物質で水に溶けなくなり、甘く美味しく食べられるという専門的な事をやさしく噛み碎いたお話がありました。小方会員の自然の話では、自然への思いや自然との接し方などに改めて思いを馳せる良い機会となりました。酒付きのピクニックばかりしている私としては大いに反省です。大西会員の鴨の話では、オスの羽の色の変化や陸鴨と海鴨の違いなど、生き残るための進化・適応について面白い話を聞かせて頂きました。

下山の前に、岩崎会員から極楽寺の開山縁起とその後の歴史、宮島との関係など盛り沢山の説明がありました。下山道は屋代コースを取りましたが、道は良く整備されており、静かな山の秋を楽しみました。



(文 森 弘 写真 前田 忠瑛)

樹木名板維持管理作業

日 時：11月7日(土) 9:00～12:00

場 所：ウグイス歩道～紅葉谷～大元公園

参加者：岩崎 奥田 川崎 北野 小林ペア
小林(寛) 佐藤(佐) 佐藤(庸) 末原
中道 舛田 村上 柳瀬 山崎 横路
呼坂 前田 増田 以上19名

環境省 大高下 AR

降水確率30%だったので安心して参加しました。2班に分かれ、ウグイス歩道と大元公園から紅葉谷へ向って行動しました。名板を一つずつ樹木マップで照合し、新品への取り替えと汚れの拭取り清掃を行いました。今日は脚立が役に立ちました。紅葉も良く、良い時に作業が出来たと思います。



脚立を使って名板取り付け中

(文 奥田 克江 写真 大高下 AR 提供)

◇編集後記◇

編集は初めてでしたが、皆様のご指導とご協力のお陰でこのページに達することが出来ました。引き続きご支援をよろしくお願い致します。(前田)

瀬戸内海国立公園

宮島地区パークボランティアの会

事務局：環境省 中国四国地方
環境事務所 広島事務所

(〒730-0012)

広島市中区八丁堀6番30号

広島合同庁舎3号館1階

TEL082-223-7450、FAX082-211-0455